

概要

件名	都祁学校給食センターから配送した給食の試食会
日時	令和 8 年 9 月 2 4 日（木） 正午～午後 1 時 1 0 分
場所	須川町公民館
従事者	教育部次長、保健給食課 5 名
参加者	地域の方 6 名 市議会議員 6 名 ※欠席（2 名）
内容	<事務局からの挨拶> ・ 東部地域の学校給食運営について、地域や保護者から意見を伺いながら検討を進めている。 ・ これまでに開催した説明会や委託候補である事業者の調理場見学会で寄せられた疑問・不安に対してお応えさせていただいている。 ・ 調理場の変更に伴い配送距離が長くなった場合の給食の温度について、保護者から懸念の声が寄せられている。当該の懸念事項を踏まえ、都祁学校給食センターから実際に配送された給食を試食してもらうことを目的として、今回の試食会を開催した。 ・ 都祁学校給食センターの調理員が調理した給食を参加者に試食してもらい、感想を伺いたい。 <試食した給食の感想及び質疑応答・意見> （感想） ・ 懸念事項である「給食が冷めていないか。」については、全く問題はなかった。 ・ 昨年まで教員をしており、実際に給食を食べていた。この配送方式でも特に冷めておらず、イメージどおりの給食だった。 Q 本日の配送時間及び委託した場合の配送時間はどのくらいかかるのか。また、配送車両は何台使用するのか。 本日は 30 分程度で到着した。現在は、4 台のトラックで配送している。委託した場合も、一番遠い学校（月ヶ瀬）までは 30～40 分程度かかり、同程度の車両台数で配送すると思われる。 Q 雪や大雨など、悪天候時（道路の崩れや倒木のリスクを含む。）の対応はどのように想定しているのか。 タイヤはスノータイヤにし、必要に応じてチェーンを装着する。また、道路や気象情報を早めに確認し、出発時刻を早めるなどの対応を行う。これまで給食を配送できなかったことは、雪の影響で 1 回だけあった。万一配送できなかった場合を想定し、学校にカレーやアルファ化米などの非常食を準備している。 Q 配送ルートについて教えて欲しい。委託した場合、針ヶ別所の村の中を通るのか確認したい。村の中は道が狭いから、大きな道路を通る方がよいと思う。 可能な限り大きな道を通ることを考えている。運営方針が決まり次第、ルートを検証していくこととなる。仮に、候補としている事業者が受託するとなれば、針ヶ別所ではなく馬場を通るルート、興東館柳生中学校区へは、水間から大保もしくは大平尾を抜けるルートが候

補である。道が狭い場所もあるが、雨や雪、倒木、土砂崩れなどがなければ、そのルートを使うことも考えられる。悪天候時には別のルートを使うなど、複数の経路を検証していく。

Q 都祁学校給食センターと柳生小学校の調理場を統合しなければいけない理由を教えてください。

都祁学校給食センターは、建物の耐震性などの問題がある。また、直営の調理員が定年を迎えるなど、現在の給食体制を維持することが難しくなっている。東部地域を軽視しているということではなく、どうすれば安全でおいしい給食を継続して提供できるかを考えた結果である。

Q これだけおいしく、手間もかかっている給食だが、コストはどうなっているのか教えてください。また、委託すると現在よりコストは多少高くなるのか教えてください。

現在は2つの調理場に分かれているが、統合することによって、施設の維持費などを削減できる。また、民間事業者の調理場を使うことで、調理場の維持費なども事業者側の負担になる。

Q 学校以外の施設にも同様の給食を提供することで、コスト面を含めた効率化が期待できるのではないかと。冷凍食品等よりも、温かくおいしい食事を提供できる点は評価できる。食材の調達主体について教えてください。

食材の調達や献立の作成は、引き続き奈良市が行う。事業者は、奈良市との契約に基づき、調理、配送、食器の洗浄などを行う。

Q 民間事業者であれば学校以外の施設に対しても、食事を提供できる可能性はあるのか教えてください。

民間事業者であり、時間や場所を区分して、施設を別の用途に活用できる可能性がある。学校の場合は、給食のためだけに施設を使い、夏休みなどは使わないこともある。

Q 東部地域の学校の調理・配送を一括して事業者へ委託する場合、対象範囲が広がることへの懸念がある。10年間の長期委託となる場合、事業者が継続できなくなった際の影響が広範囲に及ぶ可能性がある。事業者の撤退・継続困難時に備えた代替体制の確保について、現在の検討状況を教えてください。

緊急時には、近隣の市町村に応援を依頼しながら、その期間に給食を継続できる体制を整備する必要がある。近隣市町村から協力いただける意向は示していただいている。例えば、山添村などに奈良市分の給食を調理してもらい、配送については奈良市が行うという形である。近隣市町村で調理した給食を、奈良市が配送するという調理面での協力である。ただし、これは事業者が継続できなくなった場合などの緊急時の対応である。継続的に近隣市町村に頼れないため、その期間に次の方策を考える必要がある。

Q 事業者がほぼ決まっていると思うが、なぜ競争入札をしないのかという話があった。競争入札に参加できる他の事業者がいなかったのではないと思うが、その点について連合会への報告がなかった。候補事業者が決まった経緯を教えてください。

条件に合致する事業者が、実質的にほぼ一社しかないとの想定だったが、今後、事業者を公募する方法も視野に入れて検討していきたいと思う。

Q 食材の調達は、現在、市が一括して行っているが、委託する場合も同じ方法か。その場合、食材の所有権は市にあるのか。

食材の調達については、現在の方法を引き継ぐ予定である。警報などで給食が中止になった場合に、残った食材をどうするかについても、並行して検討していく。東部地域で、引き取り先があれば引き取っていただくことも可能だと思うが、引き取り先がなければ、廃棄となる可能性がある。

Q 給食の食べ残しがあった場合は、回収しているのか教えて欲しい。

現在は、東部地域を除き、給食の残渣をコンポストで堆肥化する事業を市が行っている。残渣を各学校から回収している。ただし、東部地域では、残渣の回収は難しいため、通常のごみとして処分している。

Q 委託後、事業者が自分たちのところでコンポスト化したいということであれば、対応してもらえるのか。

事業者が希望するのであれば、対応されると思う。

(意見)

・都祁学校給食センターの統合について、地元には当初反対意見があった。主な理由は、過疎地域であることから、人件費削減などの効率性を重視することへの懸念であった。給食の味や温度の問題よりも、東部地域に対する奈良市の行政のあり方を問う声があった。保護者からは、降雪時の配送遅延や給食の温度低下、市街地の学校との給食内容の差を懸念する意見が寄せられていた。試食会では、実際に給食を試食した結果、温度・味ともに大きな差は感じられなかった。試食会の実施方法や検討の進め方については、評価したい。一方で、地域の懸念が今後どのように解消されるのかについては、引き続き不透明である。本来であれば、都祁地区からの配送が決定した段階で説明してもよいが、今回はこのように段階を踏んで試食会を開催したことについては、地元として評価したい。

・高齢者向けの宅配弁当や配食サービスにも、学校給食と同様の食事を提供できる可能性について検討してはどうか。介護保険や個人負担を組み合わせた場合の費用面を踏まえると、学校給食と高齢者向け配食を同一事業者が担うことは有効ではないか。学校給食は厳しい価格設定であることも理解している。

・学校給食以外にも、調理した食事を提供するサービスとして活用できる可能性がある。他市では、不登校の子どもが給食センターで食事を取れるようにする取組や、子ども食堂・地域住民への食事提供が行われている。本市においても、給食センターを活用した多様な食事提供について検討してはどうか。

(意見への回答)

市内でも、フードバンクに食材を引き取っていただいたり、子ども食堂に声をかけしている。